

港 湾 経 済 研 究

都市経済と港湾経営

日本港湾経済学会年報

No. 19

1981

日本港湾経済学会・編

序 文

学会創設20周年を記念して
日本港湾経済学会々長 北見俊郎

(昭和56年1月)

この学会が創立総会と第1回全国大会を横浜で開催してから早くも20年の星霜を経た。時、恰も「港湾問題」が天下の注目を浴びていた。この期に港を経済諸科学の面からとらえて「一切の社会的・経済的学術研究を行い、わが国港湾の合理的発展」(会則・目的)を目指してこの学会が発足した。それから20年— さまざまな問題があった。しかし会員諸兄をはじめ関係各位のたゆまぬ御協力と御指導によって、学会は次のラウンドに飛びたとうとしていることは特に感謝の次第である。

この学会年報は第2回大会時に第1号が誕生の声をあげたので、本年で19号をむかえることになった。学会活動の中心は研究発表と討論であり、かつ学会誌の刊行にある。今までの19巻に納められた諸論文等が決してわが国の港にとって即効薬になるとは思われず、またそれだけに長期的な視野においてわが国の港の「合理的発展」に貢献するものであることを確信している。学問研究は即効薬であってはならない。また「合理的発展」とは単に港の「合理化」問題ではなく、さらに広範な歴史的概念にもとづく「近代化」を意味するもので、わが国の港はその面からの研究をいよいよ盛んにしてゆかねばならぬ段階をむかえていると思われる。

この号は第20回全国大会の共通論題である「都市経済と港湾経営」を中心とする諸論文と、各位のユニークな自由論題の玉稿をもって編集されている。いずれもその内容はこの学会の本旨を示すものであり、この学会誌の軌跡がわが国の港にとって銀の器にもらえる永遠の果実となることを心から望んでやまない。

終りに、この20年間の歩みに絶大な御尽力をよせて下さった関係各位に心から感謝すると共に、これから展望の中にも、より一層の御教導のあらん

ことを念ずると共に、いよいよこの学会誌が堅実な発展をとげていかれるこ
とを20周年の期に深く祈る次第である。また第20回全国大会のために物心両
面に御協力下さった横浜市、神奈川県、ならびに横浜港運協会をはじめ地元
関係各位に心から厚く御礼を申上げると共に、玉稿をよせられた各位、編集
委員の方々、文化印刷社の御努力を謝して銘する次第である。

(1981・秋)

目 次

序（学会創設20年を記念して） 北見俊郎

研 究

共通論題

- 港湾管理者と港湾都市の基本的課題 北見俊郎 (1)
都市港湾の流通問題に関する考察 市来清也 (17)
港湾管理と港湾行政——港湾経済との関係 和泉雄三 (35)
地域開発政策と大都市港湾の計画上の課題 木村武彦 (53)
都市経済と港湾機能の変化 山村学 (73)
日本経済の発展との対応からみた横浜港の今後の課題 今野修平 (85)
横浜港の歴史的発展と今後の課題 高見玄一郎 (113)
定期船港としての横浜港の将来 千須和富士夫 (135)
横浜港新開発計画に基づく港湾のあり方 山本長英 (161)

自由論題

- 港湾の史的考察 蟹江猛 (169)
——近代港湾成立期の名古屋港を中心として—— 日比野光伸 (169)
港湾における労務管理制度 一共同雇用問題を中心に 田中省三 (187)
港湾行政の研究と実態について 中本昭夫 (211)
ポート・メディアの社会的責任:
——機関誌「港湾」の報文動向 荒木智種 (231)
リース港の広域化問題と小規模鉄道の建設
——スコットランドに於ける鉄道建設の一つの例証 小林照夫 (259)
沿岸域問題と港湾再開発 長尾義三 (271)

文 献 紹 介

- 小林照夫著『スコットランド産業革命の展開』 安彦正一 (287)
鷹取綱著『港湾整備と地域開発』 木村晶子 (291)
市来清也著『物流経営論』 斎藤公助 (297)
Elke Schulz-Hanssen Die Verkehrswirtschaft
des Seahafens 山上徹 (301)

学 会 記 錄

- 人間生活と港湾（第19回全国大会シンポジウム概要） (307)
学会記事 (315)
学会20年・断層 (318)
港湾研究文献目録 (329)
編集後記 (399)